

明治16年、定住者もない弟子屈に
東北道で最初の温泉宿が誕生した。

弟子屈 今昔物語

摩周温泉と川湯温泉、いにしへの面影もそれぞれ。



弟子屈に温泉が開かれたのは明治16年（1883年）、道東で最初の開湯と伝えられている。この大地が明治新政府によって北海道と名づけられてからわずか14年後のことであり、サッポロに北海道庁が置かれた翌年であった。当時、塘路（標茶）に住んでいた本山七右エ門が、開拓以前の弟子屈地区に温泉が湧いていることを知り、狩猟をかねて夏だけ住まう温泉宿を作ったのが始まりだった。清らかな釧路川のふち、葦がうっそうと生い茂る湿地帯にぽつんと誕生した温泉宿に、人知れず湯煙と人影がゆらめいていた。

やがて標茶で建設作業が行われ始めると本山の温泉宿も忙しくなり、明治18年（1885年）に本山は一家で弟子屈温泉（現・摩周温泉）に移住することとなる。これは弟子屈初の和人定住でもあった。

さらに明治19年（1886年）には、福山ウメによって⊗旅館（現・ホテル丸米）が建設され、釧路川沿いに2軒の温泉宿がたたずむこととなる。そして、しだいに旅人が足を止めるようになった明治19年7月、東京帝国大学医学部の御雇教師でドイツ人のドクトル・スクリパーが来遊しており、詳細な



分析はできなかったものの、「塩分多クシテ、硫黄分少シ 効能ハ 熱病、梅毒、子宮病、喘息及諸般ノ皮膚病並金瘡ニ効アリ、殊に此湯ヲ以テ子宮ヲ洗滌セハ大ニ効アルモノナリ」と記している。

この頃、川湯にも温泉宿が誕生していた。明治19年、標茶でそば店を営んでいた高橋貞蔵が、料理店をかねた温泉宿を始めたのが最初と言われている。のちに廃業されるが、空き家となってもなお斜里方面からの湯治客が時折訪れ、誰もが自由に利用していたようである。しかしその様相は、にぎわい始めた弟子屈温泉とは比べようもなく寂しいものであった。そののち、新潟県出身の浅野清次が明治31年（1898年）に屈斜路へ入り仁伏温泉を開き、さらに明治37年（1904年）には川湯温泉に唯一の温泉宿（後の五月女旅館）を開業する。その頃から川湯温泉の優れた硫黄泉質が世に広まり始め、湯治場として利用されるようになってきた。昭和の観光開発期が訪れるまで、たった一人で川湯温泉を守り抜いた浅野は、川湯温泉街の礎を築いた「元祖」であろう。



交通網整備と国立公園指定、
昭和の時代から観光地に。

単なる温泉場から、温泉と景勝地を持つ観光地へ。弟子屈がその道を歩み、脚光を浴び始めたのは、昭和初期からである。昭和5年（1930年）に阿寒と摩周、屈斜路という三大景勝地を結ぶ道路、阿寒横断道路が開通し、昭和6年（1931年）には国有鉄道・釧網線が開通。そして昭和9年（1934年）に「阿寒国立公園」の指定を受けると、ますます弟子屈の火山や湖、原生林の美しき姿が人々の目に触れるようになった。今でこそ世界に知られる摩周湖も、昭和4年（1929年）に摩周道路が開通し昭和6年に透明度世界一を記録するまでは、地元の人すら親しみのないところだったのだ。

戦後復興の昭和20年代は、弟子屈と川湯で温泉ホテル・旅館の建設が相次いだ。それに合わせるように、昭和28年（1953年）には人気テレビ番組「君の名は」のロケ地として、昭和41年（1966年）には歌謡曲「霧の摩周湖」の大ヒットによって、名勝の地・弟子屈が全国に知られることとなる。たくさんの観光客を迎えたのは、「摩周湖に一番近い、弟子屈温泉」と「優れた硫黄泉が湧く、川湯温泉」。特色を異にした弟子屈の両雄は、120年以上を経た今も、同じ温もりで待っている。



てしかが温泉エリア

森の息吹とのどかな旅情が自慢

川湯温泉

【泉質と効能】 強酸性硫化水素を含む明ばん・緑ばん泉で、療養泉として名高く、特に飲泉は糖尿病に効く。一部重曹泉で、美肌や神経痛に効く。

(社) 摩周湖観光協会(川湯ふるさと館) 弟子屈町川湯温泉2-3-40 TEL (015) 483-2255

豊かな森と大きな湖の懷で

屈斜路・和琴・仁伏温泉

【泉質と効能】 和琴半島は主に単純泉で神経痛やリウマチ、腰痛などに効く。その他、塩化物泉、重曹泉など。

(社) 摩周湖観光協会(摩周観光文化センター) 弟子屈町摩周3-3-1 TEL (015) 482-2200
(川湯ふるさと館) 弟子屈町川湯温泉2-3-40 TEL (015) 483-2255

道東最古の由緒ある温泉街

摩周温泉

【泉質と効能】 肌に優しく湯冷めにくい無色透明の弱食塩泉で、神経痛やリウマチに効果がある。

(社) 摩周湖観光協会(摩周観光文化センター) 弟子屈町摩周3-3-1 TEL (015) 482-2200

